

ロシア為替週報

2022 年 1 月 31 日 | みずほ銀行欧州資金部

MIZUHO

＜過去 1 週間の動き＞

(1 月 22 日～1 月 28 日)

USD/RUB: 77.095～80.370

過去 1 週間のロシア・ルーブル相場は、13 カ月ぶりの安値圏にあって、下押しの先行から、反発(対ドル)。週明け 24 日のルーブル急落は、同日伝えられた「米政府がウクライナの米大使館員の家族に国外退去を命じた」「ウクライナ国内の米民間人にも退避を勧告した」との報を嫌気した値動き。ロシア軍によるウクライナ侵攻が間近いと警戒感を高めた。同日中に、ルーブルは対ドルで 2020 年 11 月来の安値となる 79.500 まで下落したが、同水準を底値に下げ止まり。ロシア中銀が、同日、財政ルールに基づくロシア財務省のための(予算想定以上の原油関連税収をドルなどのハードカレンシーに転換する)外貨購入を中断すると発表したことが、ルーブル下支え要因と読まれた。その後、ウクライナ東部情勢の緊張が続く中、金融市場全般の関心は米連銀公開市場委員会に移っていった。26 日、米政府は、ロシア側の提示した安全保障に関する要請に、要求通り書面で回答したが、ロシア側の反応は「主要な要請は全て退けられた」というものだった。ただし、米側が「NATO 不拡大の確約」などに応じられないのはわかっていたことで、特段の意外感や失望などは読み取れなかった。その後発表された米連銀公開市場委員会の決定(声明)、3 月の利上げ開始や、向こう数カ月後の量的引き締め着手を示唆した点などは「市場の織り込み通り」と受け止められたものの、パウエル議長が(3 月以降 7 回開かれる同委員会)年内の利上げ回数を限定しなかった点や、(+25b.p.以上の)大幅利上げの可能性を排除しなかった点などは「予想以上に鷹派的」と受け止められた。もっとも、ルーブルは、一連の米連銀の発表直前に、対ドルで 80.370 まで、13 カ月ぶりの安値を更新した後、ドル全面高の流れに逆行して堅調に推移。翌 27 日には、前後しての原油価格高騰などを好感して明確に反発。週を振り返って、結局、小幅に水準を切り下げるに終わった。

＜向こう 1 週間の見通し＞

(1 月 29 日～2 月 4 日)

USD/RUB: 76.50～79.00

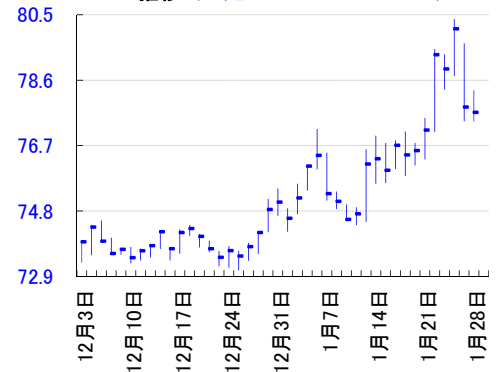
向こう 1 週間のロシア・ルーブル相場は、足元堅調の継続を予想。ルーブル堅調を予想するのは、原油価格の高止まりを想定するから。この間、原油価格(ブレント)は、一時、90 ドル/バレル台まで高騰、2014 年 10 月来の高値を更新した。原油高騰の背景には、当然、ウクライナ東部の緊張と、原油供給の混乱に対する警戒感がある。一方で、上述、米政府の「退去勧告」や米英の警戒感(「何時起きても不思議ではない」)を他所に、仮にロシア軍がウクライナ領内に侵攻するとしたら、来月予定されるロシア軍とベラルーシ軍の合同演習(予定では 2 月 10～20 日)の後との見方が、現在までに支配的になっている。つまり、向こう 3 週間余りの期間、原油価格の高止まりと、外交努力に期待した地政学的リスクの様子見という組み合わせが続く可能性は相応に高いと言える。また、その合同演習終了前(2 月 11 日)にはロシア中銀金融政策委員会が予定されるが、そもそも相応に高かった追加利上げに対する期待感が、足元ルーブル安を受けてますます高まったのは間違いない。+100b.p.を超えるような大幅利上げの織り込みが進む可能性も十分に想定できると考えるが、そうした利上げ期待の高まりは、おそらく、目先のルーブル押し上げに寄与するのではなかろうか。勿論、こと国家間の軍事的紛争となると、なにをきっかけに想定外の衝突が起きても不思議ではないのは事実。2014 年 7 月の MH17 撃墜事件のように、東ウクライナの反政府勢力(独立派)が暴走する可能性は除外できないし、NATO の関与を加速するためにウクライナ軍がロシア軍を挑発する可能性ですら完全には除外できないように思われる。プーチン大統領の頭の中は誰にも覗けないが、考慮しなければならないのは、プーチン大統領の判断(決断)だけではなかろう。万が一にも、向こう数週間の間に軍事的衝突が発生すれば、当然、ルーブルには押し下げ材料となろう。

＜向こう 1 週間に発表予定の主要経済指標等＞

月日	GMT	指標	期間	発表	予想*	前回
2/2	16:00	鉱工業生産(前年比)	12 月		+4.3%	+7.0%
2/3-2/7		国民福祉基金残高(USD)	1 月			182.6bn

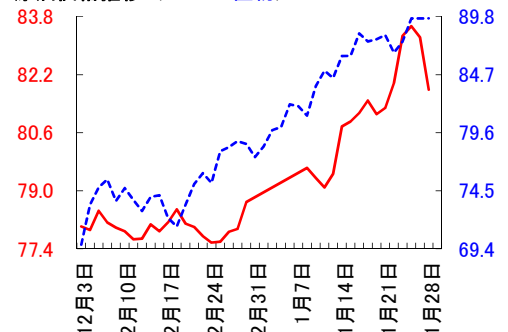
(*予想はブルームバーグ社予想中心値)

USD/RUB の推移 (日足/ロンドン 7:00～17:00)

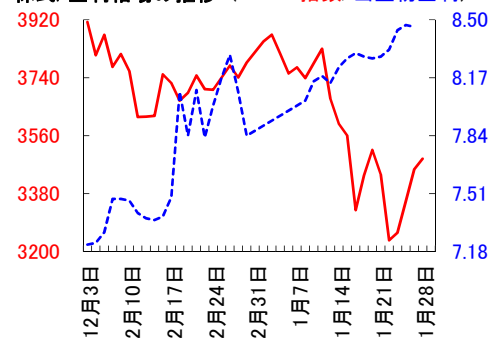


株ルーブル/バスケット推移 (ロシア中銀公示)

原油価格推移 (ブレント直物)



株式/金利相場の推移 (MOEX 指数/当翌物金利)



(資料: ロシア中銀/ロイター/ブルームバーグ)

ロシア関係主要経済指標

1 週間物入札金利		8.50%
成長率(GDP/前年比)	Q3	+4.3%
失業率	11 月	4.3%
消費者物価(前年比)	12 月	+8.39%
小売売上高(前年比)	11 月	+3.1%
鉱工業生産(前年比)	11 月	+7.0%
貿易収支(USD)	11 月	+21.1bn

当資料は情報提供のみを目的として作成したものであり、特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。ここに記載された内容は事前連絡なしに変更されることもあります。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願い申し上げます。また、当資料の著作権はみずほ銀行に属し、その目的を問わず無断で引用または複製することを禁じます。